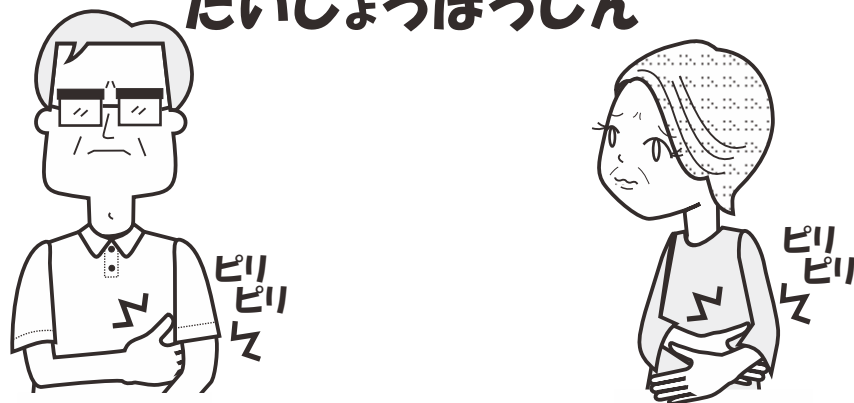


50歳以上の方は要注意!!

带状疱疹

たいじょうほうしん



宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ 

かちどき薬局のブログ
ameblo.jp/kachidoki-blog



Seedling 2019 8月号

Copyright © 2019 かちどき薬品株式会社 <http://kachidokikk.co.jp/>
健康情報サイト げんき君 <http://genki1616.co.jp>

带状疱疹とは

水痘带状疱疹ウイルスが原因で発症する病気です。痛みを伴う発疹や水ぶくれが身体の片側に带状にあらわれます。

症状

身体の左右一方に皮膚の違和感やかゆみやしびれ、ピリピリとした痛みを感じる。



身体の片側の神経に沿って带状に強い痛みを伴う赤い発疹があらわれる。



赤い発疹に続き水ぶくれがあらわれて破れ、その後ただれた状態となり、かさぶたへと変わる。



皮膚症状が治った後も後遺症として、带状疱疹後神経痛が残ることがある。



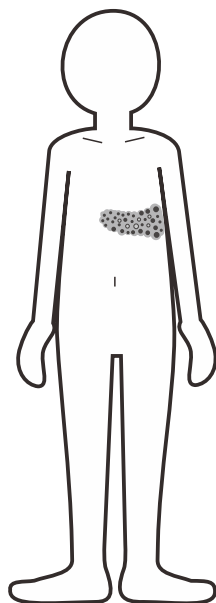
発症年齢

60歳代を中心に50歳代・70歳代に多くみられます

- ・加齢やストレス、疲労、風邪などで免疫が低下したときに発症します。
- ・過労やストレスが引き金となり若い人に発症することも珍しくありません。
- ・通常は生涯に1度しか発症しませんが、免疫が著しく低下している場合、まれに再発することがあります。

主な発症部位

- ・一般に、身体の左右どちらか一方の神経に沿って帯状にあらわれるのが特徴です。
- ・胸から背中にかけて最も多くみられ、全体の半数以上が上半身に発症します。顔面、特に眼の周囲も発症しやすい部位です。



帯状疱疹と水ぼうそう

帯状疱疹と水ぼうそうは、同じウイルスによって起こる感染症です。

水痘帯状疱疹ウイルスは、初めて感染したときには水ぼうそうとして発症します。その後もウイルスは体内に潜み、免疫機能の低下に伴い再活性化し、帯状疱疹が発症します。

水ぼうそう
ウイルス

水ぼうそう

はじめて
感染

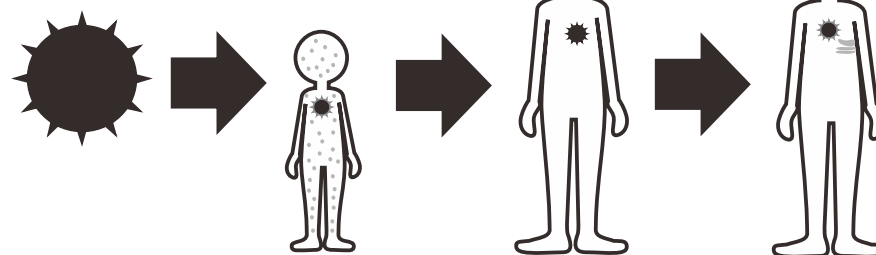
無症状

治った後も
体内に
潜んでいる

帯状疱疹

再び
ウイルスが
活動

(10歳以下の
小児に多い)



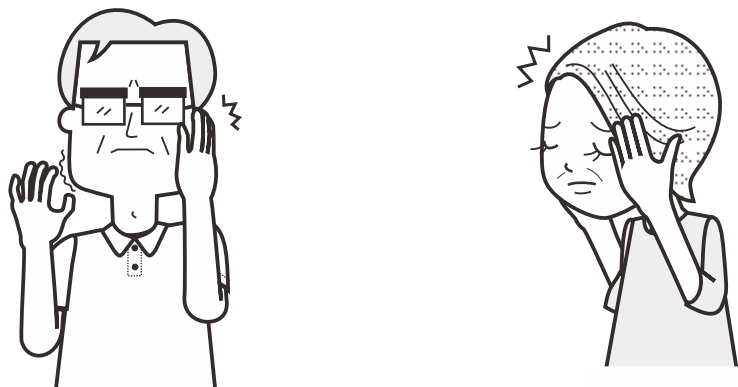
帯状疱疹は人にうつるの？

水痘帯状疱疹ウイルスは、非常に感染力の強いウイルスですが、ほとんどの人が体内にこのウイルスを持っており、他の人に帯状疱疹としてうつることはありません。ただし、ウイルスを持っていない人に水ぼうそうとしてうつる場合があります。

合併症と後遺症

合併症

発熱や頭痛、眼に角膜炎や結膜炎などを起こすことがあります。また、まれに耳鳴りや難聴、顔面神経麻痺などを生じることがあり、これを「ハント症候群」といいます。



後遺症

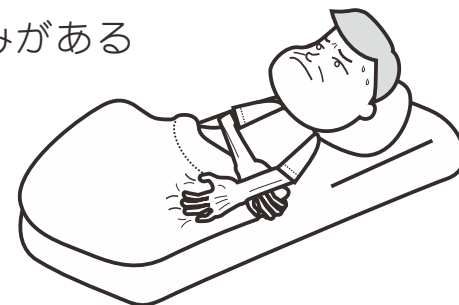
通常、皮膚症状が治ると痛みも消えますが、その後もピリピリするような痛みが持続することがあります。これを「帯状疱疹後神経痛」といい、神経が強いダメージを受けることによって起こります。痛みのあらわれ方はさまざま、絶え間なく続く場合もあれば間が空くこともあり、夜間に悪化する場合や、寒暖の差でひどくなることもあります。この痛みにより、日常生活に支障をきたすことがあります。

～合併症と後遺症～

こんな方は要注意

帯状疱疹後神経痛が残る可能性が高いです。

- 帯状疱疹の治療が遅れた、治療せず放置した
- 皮膚症状が重症
- 夜も眠れないほどの痛みがある
- 60歳以上



神経に強いダメージを受けると、痛みも治療も長引くことがあります。できるだけ早く治療を行うことが重要です。

早期発見が重要

帯状疱疹は、ウイルスが皮膚や神経に与えるダメージが少ない早い段階で治療を始めることが大切です。自分では判断しにくく、初期段階では虫刺されやかぶれ、他の皮膚疾患などと思いをする方が少なくありません。そのため、対処が遅れ重症化させてしまうこともあります。理由不明の痛みや違和感を身体の片側で感じたら、早めに皮膚科を受診しましょう。

治療

<薬物療法>

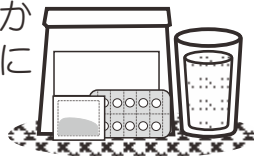
■抗ウイルス薬

ウイルスの増殖を抑制し、病気の期間を短縮します。早期から抗ウイルス薬を使うことで症状の悪化を防ぎ、皮膚や神経のダメージを軽くする効果が期待できます。

抗ウイルス薬は、効果があらわれるまでに2日程度かかります。すぐに効果があらわれないからと服用量を増やしたり、途中でやめたりせずに、指示通りに服用しましょう。

■消炎鎮痛薬

痛みを抑える薬です。どんな痛みなのか医師に詳しく説明し、その程度や種類に応じた治療を受けましょう。



<日常生活での注意>

■患部を冷やさない

患部が冷えると痛みがひどくなるため、できるだけ温めて血行をよくしましょう。

■水ぶくれは破らないように気をつける

水ぶくれが破れると、細菌による感染が起こりやすくなります。細菌による化膿を防ぐためにも、患部は触らないようにしましょう。



■乳幼児との接触は控える

水ぼうそうにかかったことのない乳幼児が水ぼうそうを発症する可能性があります。

予防

■ワクチンが有効的

50歳以上の方を対象として、水痘ワクチンを任意で接種することができます。水痘帯状疱疹ウイルスに対する免疫力を高め、発症を防ぎます。また、例え発症しても軽症で済み、帯状疱疹後神経痛の予防にもつながるとされています。

■乳幼児の場合

1歳以上3歳未満の乳幼児は水痘ワクチンの定期予防接種の対象です。

帯状疱疹からうつることもあるため、水ぼうそうにかかったことのない人は早めに受けておきましょう。

接種間隔・回数: 3ヶ月以上あけて2回



■免疫力を低下させない

- ・ 食事のバランスに気をつけて、十分な栄養をとる
- ・ 睡眠をきちんととり、規則正しい生活を送る
- ・ 疲れているときには必ず休息をとる

